

手を携えて、ICT活用を支援します

hand in hand

裏面も
ご覧ください

介護事業所の **ICT活用** はこれからの介護事業所 **運営に必須** となります。

介護事業所の **有効求人倍率は上昇** しております。

求人に対する応募者数は年々減っており、

日本の人口統計予測をみても、どのような企業でも職員 **採用は困難** なことが容易に予測されます。

01

Z世代の採用とは

Z世代とはデジタルネイティブ世代とも呼ばれ、**スマートフォンを日常的に使うことが当たり前**の世代です。

そのような方々が、介護記録を紙とボールペンを使って記載する介護事業所に応募するのでしょうか？

02

間違ったICT活用

例えば、記録を一旦メモ帳やバイタルチェック表に記録してからタブレットやパソコンで入力していることはありませんか？記録を電子化するのであればこれで良いかもしれませんが、**効率は上がっていません。**

これは記録の標準化ができていないということが原因です。

03

DXとは

デジタル・トランスフォーメーションの略ですが、ICT活用ということではありません。**業務フローを劇的に進化**させていき、その手段の1つとしてデジタル技術を使うことです。言葉におどろされないでください。

完全テレワーク型居宅介護支援事業所の運営で培った経験と知識をフルに活用して支援をいたします。

業務フローを徹底的に洗い出し、まずは **標準化** を目指します。

その上で **メンバーが納得いくICT活用** を提案し馴染むまで伴走いたします。

それが **hand in hand** です。



株式会社279

hand in hand

北海道札幌市西区発寒16条12丁目1-20

電話番号：050-1741-3279

サイト：<https://279279.net>

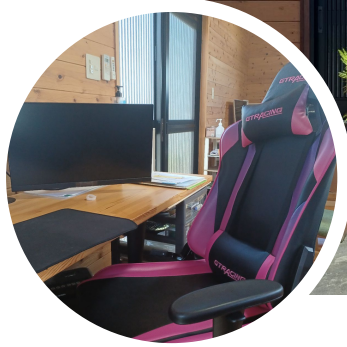
実践事例
case.1

合同会社ウッドケア様



事業所全体のICT活用支援

- 社内ポータルサイト構築
 - 社外向けWEBサイト構築
 - 各種帳票のスプレッドシート化
 - ICT活用相談室（定期開催）
 - Google work spaceの活用
- オリジナルアプリの提供
- FAX受信chat投稿アプリ



伊藝代表

私が居宅介護支援事業を開業した当初はICT化なくして介護業界に未来はないと確信し情熱にもえていました・・・やはり現実はきびしく、「デバイスはそろえた、ソフトやアプリも準備した、しかし他職員への教育がなかなかうまく行かず、時間も膨大に費やしてしまう。収入確保のため担当利用者様は増やしていかなければいけない」というジレンマのなかでhand in handのプロフェッショナル集団に教育や社内ツールの整理ををしてもらうことにより仕事環境が整うことになりました。



実践事例
case.2

つなぐ手 ケアマネセンター

事業所全体のICT活用支援

- 社内ポータルサイト構築
- 社外向けWEBサイト構築
- 各種帳票のスプレッドシート化
- Google work spaceの活用
- オリジナルアプリの提供
- 新規相談票アプリ
- FAX送信アプリ

ケアマネの完全テレワーク化には「DX」は切っても切り離せないものです。それを使いこなせるためには、使う機能の整理が重要です。ここを見ればわかるために、ポータルサイト活用が良いと思いますが、同時に定期的なメンテナンスが必要です。hand in handが有効です



小谷代表取締役

